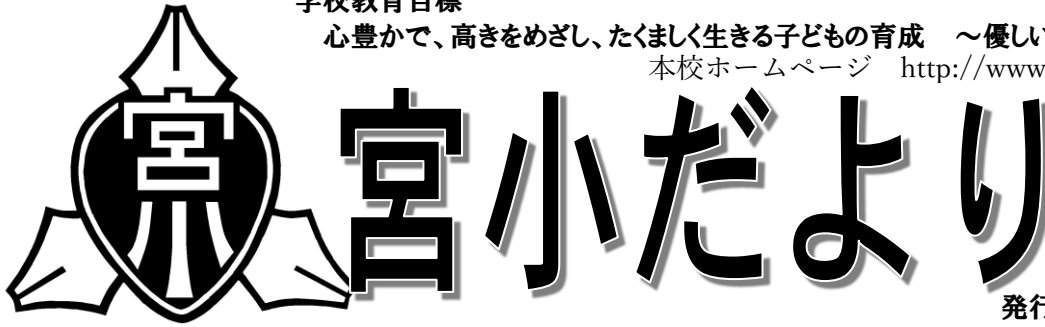


学校教育目標

心豊かで、高きをめざし、たくましく生きる子どもの育成 ～優しい子・考える子・丈夫な子～

本校ホームページ <http://www.sakata.ed.jp/miyanoura/>



令和4年6月22日号  
発行:酒田市立宮野浦小学校

## 自ら考え、自らの力で生きる子ども

1学期も半分が過ぎ、1ヶ月後は夏休みになります。1年生は毎朝の登校にもだいぶ慣れました。速く歩くことができなかつたり、重い荷物に疲れてしまつたりしたこともあります。左右、信号の確認をして、安全に登校する姿が年度初めより多くなりました。毎月1日と15日には地区交通安全協会の方々が、明日明後日は「あいさつ運動」担当保護者の皆様より立哨いただきます。その折には、できるだけ以下の様をお願いしたいと考えます。

- 大人が安全を確認して横断させるのではなく、子どもたちに左右を確認させて渡らせる。
- 大人は子どもたちの判断が正しいことを見届ける。
- 命に関わる危険な行為、行動は厳しく注意する。

私たち大人は一般的に子どもとかかわる時、良かれと思って子どもたちの手助けをしてしまいがちですが、子どもたちの成長するチャンスを奪ってしまっていることがあります。本来子どもたち自らが考え、判断し行動しながら経験していくことが大切です。子どもが成長していく上での壁や障害を乗り越えようとするとき、考えたり悩んだりするのは当事者の子どもであるべきです。もちろん一緒に悩んだり、困難を乗り越えたりするためのサポートやコーチは必要です。しかし、周りにいる大人だけが悩み、それを解決しようとしている状態では、子どもの成長にとって決してよい環境ではないはずです。私たちの願いは、「子どもが自律して世の中を渡っていくことができる」ようにしていくことです。そのために、学校生活の中ではトラブルを未然に防ぐ手立ても考えますが、困難に出会ったときに立ち止まり、悩み、周りのサポートを受けながら改善・解決していく経験を積み重ねていくことを心がけています。

登校は、1年生の子どもたちにとって大事な勉強の場ですが、上級生にとっても人とかかわり方や思いやりを表現する大切な学びの場です。1年生と手をつないであげたり、歩みに合わせてゆっくりとした速さで歩いたりしてあげるなどの行動は、微笑ましい光景と感じますが、たくさんの人たちとかかわる社会の中で生きていくための一場面です。

※地域の皆様から、子どもたちの危険な自転車乗りについて、多くの指摘を受けています。3年生は自転車教室を開催し、親子で安全な乗り方を確認しました。臨時全校集会では、命の大切さ、自分で命を守るにはどんな行動をとらなければならないか学年の発達段階に応じて考えさせたところです。ご家庭でも今一度「自転車の乗り方」について親子でお話しいただければ幸いです。



校長